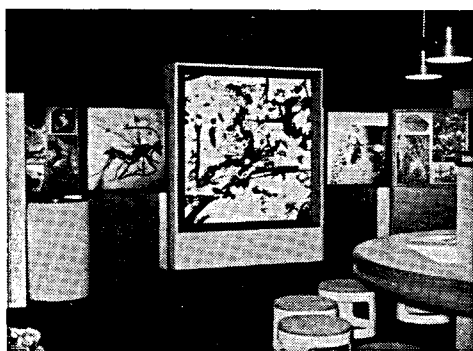
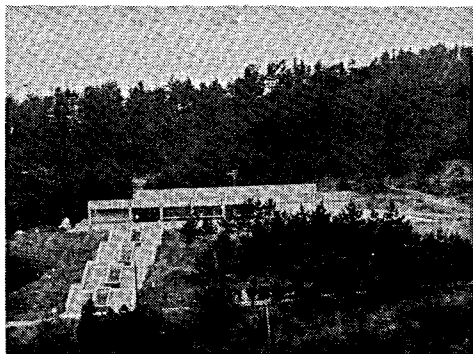


岐阜の博物館

編集兼発行

〒483 羽島郡川島町
エーザイ工園
内藤記念くすり資料館内
岐阜県博物館協会
責任者 吉田幸平
振替 名古屋 70106



※写真上, 中央道よりの全景。
下, 「コハクと昆虫の世界」展示コーナー。

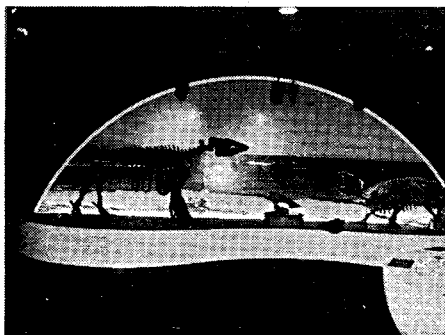
館・園紹介 No 22

四大特徴を持つ

瑞浪市化石博物館

〒509-61 瑞浪市明世町山野内1-13

TEL<0572>68-7710



デイスモスチルスの展示。
左が土岐市産。

所在地の瑞浪市明世(あけよ)といえは、わが国の第三紀中新世化石の産地として余りにも有名であり、天然記念物にも指定されている。博物館より一歩外に出れば、露頭に化石が現われ、現場での学習にすぐとりかゝれるのが、この博物館の最大の強みであり、特徴である。

ここを中央自動車道が通ることになり、この工事のため掘り出された多くの標本・資料を収集することができ、名古屋大学の糸魚川淳二先生の指導や研究にもとづき、最新の成果が展示されていることが第二の特徴である。

この多くの収集展示資料のうち、特筆すべきものは、虫入りコハクである。デスモスチルス化石の樽太産や土岐市産の全身骨格や当地瑞浪産の頭骨等レプリカ(複製品)は、あちこちで見ることができ、コハクは小さいけれども、展示屋さんのすぐれた展示技術により、この博物館を世界的なものに仕立てているといつてよからう。展示資料として貴重なものは次にヒゲクヅラ化石、そして生痕(せいこん)化石をあげる。

第四の特徴は展示室の中央に学習コーナーを設置したことである。

館内学習と野外の露頭学習を組み合わせた博物館活動の今後に期待したい。

※※ 昭和49年5月1日オープン。全館906㎡、展示室337㎡。小中学生100円、一般200円。毎週木曜日と国民の祝日(ただし休館日と重なった時はその翌日)および毎月月末(ただし、月末が木曜日や祝日の場合はその前日)、12月28日から1月4日までが休館日。展示は東京の丹青社施工。(文責:宮崎)

昭和49年度 新役員決定

去る5月13日、岐博協総会にて、新役員が下記のように再選・追加決定され、協会活動の一層の充実・発展を期すことになりました。

会長 上松 陽助(岐阜市長)
副会長 郷 浩(岐阜城館長・東海博協理事・文化財保護協会常任理事)
“ “ 長倉 三朗(飛騨の里名誉村長・文化財保護協会副会長)
理事長 吉田 幸平(濃飛甲冑研究所長・文化財保護協会常任理事)
理事 日比野 武(大垣城郷土博物館)
白木 孝二(菊花石会館)
名和 秀雄(名和昆虫博物館・文化財保護協会理事)
田中 利夫(岐阜市立児童科学館)
青木 允夫(くすり資料館)
若宮 成光(若宮修古館・文化財保護協会常任理事)
中田 勉(白川郷合掌村)
武藤 隆一(奥美濃郷土館)
石田 豪澄(貴異美術館)
本田 淑郎(高山屋台会館)
土田吉左門(飛騨集古館)
渡辺 卓郎(瑞浪市化石博物館)
大橋 宜嘉(飛騨大鐘乳洞・国際博物館)
古川 庄作(岐阜県陶磁器陳列館・文化財保護協会常任理事)
樹神 弘(岩村町郷土館)
尾内 広行(神岡高原郷土館)
大江まさる(中部山岳考古館)
以上館園側理事
小野木三郎(機関紙編集長)
上村 修(会計事務担当)
松本 秀夫(セミナー担当)
以上個人会員側理事
監事 松田 充(文化財保護協会副会長)
石川 良宜(同上 常任理事)

藤田松太郎(文化財保護協会常任理事)
顧問 兼村虎之助(文化財保護協会々長・県文化財審議委員)
広瀬 鎮(日本モンキーセンター学芸部長・ICOM日本委員・日博協理事・名古屋大学講師)
事務局長(兼理事)
青木 允夫(くすり資料館)
局員 滝山 久登(“)
“ 松岡まち子(“)
機関紙編集部
小野木三郎・柴田 佳章

＝ 郷岐阜城館長ら四氏に 感謝状贈呈 ≧＝

昭和37年に、岐阜県博物館協会が設立されて以来理事長・副会長等として、卓越した指導力を以て協会発展のために、多大の貢献をされた岐阜城館長 郷 浩氏、事務局長・理事長として、豊富な経験と知識・巾広い行動力で、協会発展に貢献をされた濃飛甲冑研究所長吉田幸平氏、高山市飛騨の里の開村・民俗資料保存等、博物館界に多大の業績を残され、また協会発展に寄与された飛騨の里村長長倉三朗氏、協会の顧問として、豊かな経験・学識でご指導下さり、協会発展のためにご尽力下さった日本モンキーセンター学芸部長広瀬 鎮氏、以上いずれも、協会発足当時の、岐阜県博物館協会発展へのご労苦を感謝して、総会の席上、協会から感謝状を贈呈しました。ここに広くご紹介申し上げ、心より感謝したいと思います。

博物館セミナー No.1 発行

岐博協主催のセミナーの記録がやっと出版され、総会の席で配布されました。これを機に、会員相互の研修の場を更に充実させ、「博物館学」確立のために前進したいものです。

❁ 事務局移転のお知らせ ❁

内藤記念くすり資料館へ

長い間、濃飛甲冑研究所内にありました本会事務局が、内藤記念くすり資料館内へ移されることになり、5月26日、事務引き継ぎ作業が行なわれました。くすり資料館長青木允夫医・薬学博士、学芸員に、事務局長をお願いし、岐阜県博物館界の益々の発展が期待されます。

今後の通信連絡・会費納入等事務連絡は、全て下記にてお願い致します。

〒483 羽島郡川島町松倉 エーザイ川島工園

内藤記念くすり資料館 内

岐阜県博物館協会

TEL<058689>3111(代表)内線540

振替 名古屋70106番

吉田幸平理事長ロンドンで講演

吉田幸平本会理事長、(濃飛甲冑研究所長)は、日本博物館協会海外視察団に加わり、6月1日羽田を出発、I COM総会等に出席され、またヨーロッパの各博物館スタッフと共に話し合い、学習をする研修を重ねられます。6月4日にはロンドンにて、日博協・ロンドン博物館協会合同の「日本の甲冑」についての合同セミナー席上で、『日本の甲冑、特に江戸時代の当世具足の時代考証のポイント』を話題提供され、英国の「日本甲冑研究家」との間で、国際研究会をもたれます。6月21日帰国予定。ヨーロッパ博物館界の見聞記を楽しみに待ちましょう。

セミナーに多数参加を!

文化財保護協会との提携のもとに、回を重ねてきました「博物館学セミナー」及び「博物館研修会」は、本年度も下記のスケジュールで開催されます。会員各位のご出席をお願いし、あわせて、内容等のご希望がありましたら、セミナー企画担当の下記係までご連絡下さるようお願い致します。

願います。

6月 岐阜市白華庵、7月 東濃多治見市内

9月 岐阜市内 10月 東濃瑞浪市

11月 (場所未定) 2月 (場所未定)

★詳細は、その都度事務局より案内されます。

★ご要望等ご意見は、

〒500 岐阜市安宅町2丁目18 松本秀夫

〒500 岐阜市岩戸花月町2の1 吉田幸平まで

学芸員四人誕生

昭和48年度学芸員試験資格認定で、県下から四名が合格し、有資格者となりました。

田中淑紀 養老郡上石津町牧田(国家試験)

柴田佳章 関市大平町2の32(国家試験)

丸山順士 岐阜市黒野五丁目1438(国家試験)

野村 豊 岐阜市長良梅子3013()

学芸員資格取得講習に参加を!

国立社会教育研究所では、昭和49年度の研修講座のひとつとして、「博物館職員講習」を実施しますが、その大要は次のようです。

※講座名 博物館職員講習

※趣旨 自然科学系の学芸員の資格取得に資するための講習を行なり。

※対象 博物館法施行規則第5条各号の1に該当する者で、博物館に勤務している職員

※定員 100人

※期間 昭和49年12月6日(金)～19日(木)

※内容 学芸員となるための試験認定に必要な科目9単位のうち4単位。(残りは、昭和50年度において実施予定)

※研修参加の申込み

県教育委員会が、研修開始30日前までに、推薦書を添えて書類提出することになっておりますので、参加希望者は、県教育委員会社会教育課まで、詳細を問合わせられるといいと思います。どんどん多数参加下さい。

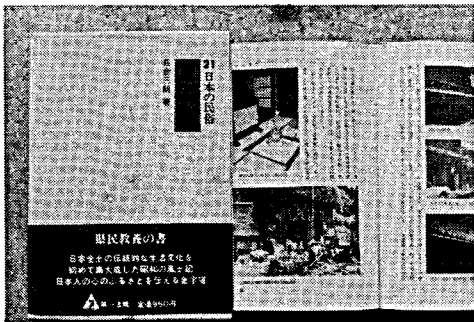
岐阜県の博物館施設一覧表訂正・追加

- P.1 A 9 神坂文化資料館 電話<026472>28呼。
 P.2 B 8 高山屋台会館を高山屋台会館※※に。
 " B 13.14 住所中萩町を萩町に。
 " B 16 住所中三間手を二間手に。
 " B 21 住所中元寺を通元寺に。
 P.3 C 7 野島甲冑美術館の
 電話<0577>32-5746
 " 8 伊藤裕教コレクション
 電話<05762>5-2065
 P.4 F 2 郡上八幡大鐘乳洞は、郡上八幡サン
 パークランド大鐘乳洞に。

追加館園

- A 31 可児郷土歴史館 〒509-02 可児郡可児町
 久々利 電話<05746>4-1120

- B 25 下野郷土館 〒508-02
 恵那郡福岡町 644の2 下野小学校内
 B 26 板家の里飛騨風物館 〒506 高山市松之木町
 C 18 加藤陶芸陳列館 〒507 多治見市市之倉 4
 C 19 春慶会館 〒506 高山市神田町 1丁目
 西小学校北隣り 電話<0577>32-0662
 C 20 久尻元屋敷窯跡発掘品収蔵庫 〒509-51
 土岐市泉町大富 261-9 土岐陶業セン
 タービル内 美濃陶祖器保存会
 D 14 長島氏鉱物コレクション 展示室 〒508-01
 中津川市苗木 苗木公民館内
 D 15 瑞浪市化石博物館 〒509-61 瑞浪市明世
 町山野内 1-13 電話<0572>68-7710



××× 図書紹介 ××××××××××××××××

長倉三朗著 日本の民俗 21「岐阜」

第一法規 定価 950円

各都道府県別の「日本の民俗」(全47巻)が、第一法規から刊行中で、巻21「岐阜」は、本会副会長長倉三朗の労作で、この五月末に出版されました。従来の県下の調査・研究の成果を総合的に集約し、内容は、県下の衣食住・生産・交通運輸通信・交易・社会生活・信仰・民俗知識・芸能娯楽・人の一生・年中行事・口頭伝承にわたる広範なもので、純粋な学術書というよりは、むしろ「岐阜の民俗」に関する格好の入門書といえよう。県民必読の教養書として、広く読まれ、ふるさと岐阜県の民俗資料保存のために、ひとりでも多くの人々が深い理解を示されることが期待される。

博物館絵地図できる

館・園利用・活用の便に!

西洋先進文化国家に比べると、日本人はまだまだ博物館およびその類似施設等の利用・活用が下手であるといわれています。県下に100に及ぶ博物館施設があっても、まだまだ県民各層に広く知られているとはいえないのが現状です。

本協会では、「博物館へどうぞ」と題した諸施設所在絵地図を発行しました。イラスト・構成は、理事(学芸員)小野木三郎氏の手により、発行に際しては、飛騨大鐘乳洞の大橋宜嘉氏、



岐阜文芸社の飯尾寛氏等の多大のご援助をいただきました。

総会にご出席の会員の方々には直接配布されました。

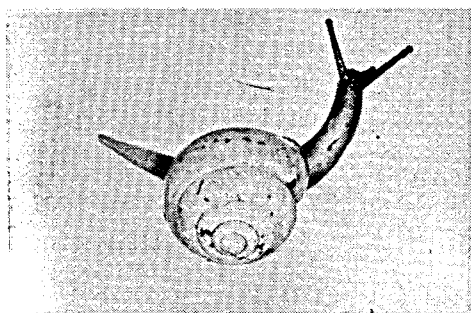
各館園もご活用ください。

岐阜県博物館に望むことなど

日本貝類学会々員 大垣内 宏

貝類観察会

当初は、岐阜県の陸貝分布調査を主目的にしたが、自然環境破壊の進む今日においては、一人でも多くの人に、自からの手で自然に触れ、自からの眼で自然を見つめてもらい、みんなで自然保護を考えてもらい、世論の力で地球のあらゆる生物(人間も含めて)の生棲を保障出来る環境を、守り作っていくことを主眼にするものへと発展させてきた。



(ヤコビマイマイ、揖斐郡春日村川合産)

陸貝を通じて、自然の仕組みを理解してもらい、知ることによって親しみが増し、そのことが自然愛護へと進むものと確信している。

今建設が進められている県立博物館においても、普及活動の一環として、このような自然を理解し愛護する気持を養い、観察会を計画されることを切望する。

岐阜県の陸貝・日本の陸貝

観察会を始めた当時(1970年)は、すでに愛知県の陸貝が85種、三重県の陸貝が115種知られていたのに対し、岐阜県は67種しか確認されておらず、同じ東海地方でありながら、いかにも少ない数であった。海の無い岐阜県のため、海岸近くにしか住まない種もあり、或程度のハンディキャップはあるにしろ、それは努力不足といえる数字であった。

更に、海拔0mから3000m級までの地型の変化、破壊されたとはいえ今尚残る原生林、多くの石灰岩地帯と、陸棲貝類の生棲には好条件の整った岐阜県である。ここ数年精力的に県内を見て廻った結果、107種、亜種を含めれば120種を超える陸貝を確認記録することが出来た。

日本には約800種の陸棲貝類が生棲していると言われるが、承知の通り移動能力が極端に低いため一つの山並、一つの河川によって区切られ、一つの地で進化・分化の道をたどったものが多く、全国的に産するものはわずかである。このためほとんどの種が、各地の特産種といえるのが陸貝の特徴である。岐阜県においても西濃と飛騨ではがらりと種属が変わっている。

先にもふれたように石灰岩地帯は陸貝が豊富である。これは殻となるカルシウムの供給源となっているからである。又原生林は、その風倒木、積った腐葉が食物となり、恰好の生活圏となっている。このような地形、地帯を持つ岐阜県は、日本屈指の陸貝の産地であり、特に伊吹山・美濃赤坂金生山が有名である。

標本の作り方

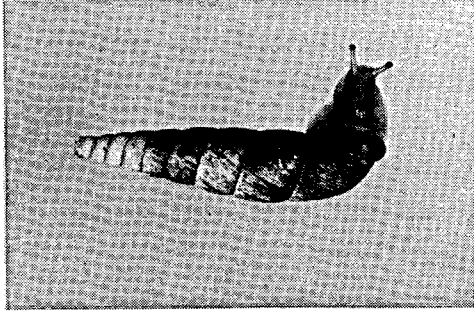
本来は、「自然博物館としての生棲地」へ出向いていき、そこで生活している貝を見るのが一番よいが、それには交通の便や、時間的制約などがあり非常に困難である。初めての人には尚更である。

やはり資料としての標本は博物館に保存し、それらの標本を見くらべ、関連を調べることが興味を持つ始まりとなり、比べることが科学の出発になるので必要である。このため完全な標本を作り、保存・展示するのも博物館の重要な仕事となる。まず誰が、いつ、どこで採ったか

判明している標本を県内産の総てと、隣接県の種類位は、県博物館に保存されるべきである。

貝の標本は、一般的には貝殻を主体としており、ここでは貝殻標本の作り方を中心とするが、完全標本としては軟体部分もアルコール漬にして保存するのがよい。

貝殻標本を作るには出来るだけ新鮮な個体がよい。大形のマイマイ類は、熱湯の中に数分間漬け、「肉体を引き出す」というより「殻をは



(オオギセル、美濃市谷戸産)

ずす」という気持ちでゆっくり引きはなす。熱によりタンパク質を固化させて抜くのであるが、硬くなりすぎたり、まだ軟かくて途中で切れることがあるが慣れれば、どの程度の熱処理時間がよいか判ってくる。ニッポンマイマイ・コベソマイマイが4分、普通のカタツムリが2~3分、ヤコビマイマイが1分、オオケマイマイ・オトメマイマイが30秒位が私には丁度よい。うまく抜ければ水洗し、歯ブラシ等で泥などの汚れを落して陰干しにする。途中で切れた場合(ほとんど内臓部分)は振り出したり、スポイドや注射器で勢よく水を吹込む動作を繰り返すと出てくる。

キセルガイ類はまず密栓の出来る容器に入れ水を張って、この中に貝を入れ封じておくと、肉体部を最大限殻より出して窒息死する。これを熱湯につけ固化させて抜き取るとよい。全ての貝をこうして窒息死させて抜くのもよい。微小貝はアルコールに浸してから陰干しにするのが一番楽である。陸貝の一部にもフタのある種があり、これらの種にはフタも標本の一部と考へ取っておかなければいけない。

乾燥後には、他の標本と同じで、採集地、採集日、採集者などのデーターを附しておくことを忘れてはならない。特に陸貝は殻だけでは同定出来ないことがあり、採集地が不詳の場合は標本としての価値がない。

県博物館への協力

県博物館の展示については、極力自然のままの姿で行なりより要望してきたが、計画の中に取り入れてもらえた。県内の小動物については出来るだけ飼育展示するとよい。動物園や水族館は比較的あちこちに見られ、それらの飼育展示については、それなりの技術が確立され資料もあるが、今度県博物館では軟体動物も飼育することになっている。これはまず日本初の企画になると期待している。まだほとんどの陸貝の生活・生態は判っておらず、飼育していくには非常な困難が予想されるが、ぜひ成功させ全国に誇る施設になってもらいたい。

このため県下の貝仲間は飼育の研究をはじめ、或る程度の数の個体を“常に、供給出来るようリストアップを行なっている。又、県内で確認されている陸貝は107種であるが、文献上では記録されていても、最近は今々見られなかったり、県下で唯一個だけという種については、充分展示標本として耐えられるものでないので、50年開館までにこれらの種も揃えることが出来るよう、最善の努力を払っている。

生体展示の勧めとその方法

百貨店でカブトムシやカタツムリが商品として売られているとさわがれてから久しく、今やヤドカリ・金魚と並んで夏の屋台の人気者となっている。この小さな生命を単なる精巧なおモチャとして取扱い大人の“商法”によって、子供達にカブトムシの存在と一時の興味は与えることが出来たが、死ねば金を出して新しいのを買い出すことが出来ることから、生命の尊さを忘れ、これが長じて人命無視へと発展していくことになる。

自然を自分の目でたしかめ、触れてみることによって、自然への興味を抱かせるために、博物館での生物資料を最大限生体で展示することを願っている。

「文教施設めぐり」で 博物館、大きくとりあげる

岐阜県教育委員会は「文教施設めぐり」という地図付案内書をつくったが、この中では、学校、社会教育施設、体育施設、文化財・史跡、名勝等を受け、10コースを策定し、見学・活用を呼びかけている。この内に、「博物館」の項をつくり、協会のつくった一覧表中の22施設を含めて紹介している。同案内パンフレット希望される方は、県教委まで問い合わせられたい。

治水記念館・水郷資料館 企画さる

海津郡海津町治水神社の隣り、木曾三川の中洲に、工費13億円で治水公園が計画され、木曾川治水の歴史、宝暦治水、薩摩義士等について展示する治水記念館や水屋等移し、水郷資料を展示する水郷資料館をつくる構想が、県企画部より発表された。

下呂町に爬虫類の森できる

下呂温泉合掌村のすぐ横に、工費1億1千万円で、鉄筋コンクリート建、六角形パビリオン5棟を建て、毒ヘビ・ワニ・トカゲ・カメ等80種、数百匹を展示。

養老公園に森の博物館できるか

県立養老公園に、工費4億3千万円をかけ、大型児童公園「こどもの国」の計画が県にあり、この中に、森林の役割を学習する場としての、森の博物館ともいべき施設をつくりたい考えがあるようである。数少ない自然教育の場として、ぜひ実現し、より充実したものになることが期待される。

飛驒民俗資料館オープン

吉城郡吉川町上気多に、4月7日開館。建材業 井之口貞美さんは、製材所の移転跡に建てた330㎡の入り母屋に、生活民具等二千点を展示し公開。工費約二千万円。入館料・おとな200円、小中学生100円。

土岐市の博物館施設の動向

文化会館2階の資料室には、中央自動車道工事の時、六ヶ所の窯跡から出土した陶片を展示し、一階ロビーには、土岐市泉町より発掘したデスマスチルス的一种、パレオパラドキシヤの全身骨格レプリカが、草を食べている姿で展示されている。

土岐川のほとり、県事務所の隣に、二宮市長寄贈のコレクションが、土岐市記念館としてオープンした。

市の商工課では、陶芸村のマスタープランをつくり、目下計画検討中。将来は博物館開設の予定がある。

また町には創陶園が開園しており、古陶器陳列場を公開し、陶芸教室が開かれている。

つむぎの館（やかた）開館

郡上郡八幡町美山の郡上八幡サンパークランド大鐘乳洞前に、昭和48年6月オープン。富山県より移築した二階建てくずや。階下面積311㎡。一階は、つむぎ織り実演・実習。岩尾古文書展示。二階は民俗資料を展示。連絡は、TEL<0575603>呼21・22。

編集後記

★異常な高物価、地道な文化活動への、あまりに淋しすぎる物的・精神的援助不足の現実、博物館への理解の少なさ………逆境にあればあるだけ、本紙は、意欲的に発刊し続けなくては……と熱意が湧いてきます。
(小野木)

岐阜県博物館協会規約

第1条 名称

本会は、「岐阜県博物館協会」と称する。

第2条 目的

本会は、会員相互の連絡提携のもとに施設活動の拡充発展をはかり、もって社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与することを目的とする。

第3条 会員

本会は次の会員をもって構成される。

1. 正会員 岐阜県内の博物館および類似施設・個人会員をもって正会員とする。
2. 賛助会員 本会の主旨に賛同され、賛助費を納入された方をもって賛助会員とする。

第4条 事業

本会は、第2条の目的達成のため、次の事業を行なう。

1. 総会・役員会の開催
2. 会員相互の情報交換
3. 職員の研修
4. 巡回展示物のあっせん
5. 機関誌「岐阜の博物館」の発行
6. その他必要な事業

第5条 役員

本会は、次の役員を置く。

1. 会長1名
2. 副会長2名
3. 監事3名
4. 理事長1名
5. 理事若干
6. 機関誌編集部2名
7. 事務局員2名
(内1名は会計担当とする)

第6条 役員を選任

1. 会長は、本会の業務を掌握しこの会を代表する。会長は事務局を設置し会の運営に当る。
2. 副会長は、会長を補佐し会長に支障ある時は、その職務を代行する。
3. 会長・副会長・監事・理事長および理事・機関誌編集部・事務局をもって役員会を組織し主要事項を審議する。
4. 事務局長は、会長の委嘱を受け事務局を統括し、会の運営に当るものとする。

第7条 役員任期

会長・副会長・監事・理事長・理事・

機関誌編集部・事務局員の任期は二年とする。

第8条 顧問

会長は顧問若干名を委嘱し、顧問の任期は2年とする。顧問は、総会・役員会に於て会運営のための助言・指導を行なうものとする。

第9条 役員会

役員会は会長がこれを召集し開催する。

1. 定期役員会
2. 重要かつ緊急を要する場合の臨時役員会
3. 役員会は次の事項を審議する。
(1)規約の改正案 (2)総会に付議すべき事項 (3)会運営上の重要事項 (4)理事長の互選 (5)会計監査報告 (6)事業経過報告 (7)収支決算報告 (8)役員紹介 (9)その他重要事項。
4. 役員会は役員総数の三分の二以上の出席を必要とし、議決は、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。ただし、事務局には議決権はないものとする。

第10条 総会

会長は会員を召集し総会を開催する。

1. 総会においては、会の運営ならびに会計収支決算・人事・事業計画等の報告を受ける。
2. 総会は会の人事について審議する。
3. 総会は事務所の設置場所を決定し、会長はそれに従い事務所の設置場所を告示する。
4. 総会は正会員の半数以上の出席を必要とし、議決は、出席正会員の三分の二以上の賛成を必要とする。

第11条 運営費

本会の運営費は次の収入を充当する。

1. 会費・寄附金・補助金・賛助費その他
2. 会費は、公立2,500円、私立2,000円、個人1,500円、
賛助費1口3,000円(年額)

第12条 会計監査

監事は年一回会計監査を行ない、これを役員会・総会に報告する。

付則 この規約は昭和49年4月1日から施行する。